日本はどうなる

第二輯

著者

大神田軍治

特202
462

0003627000

0003627-000

特２０２－４６２

日本はどうなる

大神田軍治・著

国策協会

第２輯

昭和１６

ABA

100

特202
462

著　　者

國策協會理事長

大神田軍治

直己以
事上

平沼騏書

滅私奉公

聖旨を奉戴

目次

一、新體制の認識　一
二、新體制下に於ける政治家の態度　二三
三、議會の能率增進策　二八
四、政治的謀略抗爭の秋にあらず　三九
五、國內の政治態勢是正の道　五一

昭和大学 図書

六、官僚反省の秋　六二
七、國民の戰時道德再建の要あり　六九
八、皇恩無窮　七六

はしがき

英本土の崩壞は、最早疑ふの餘地はない。

而かも時期的には、極めて近き寸前に迫りつゝありとの印象は今や世界の常識となつて來た。

だがそれだけに。援英强化に驀進しつゝある米國の參戰は、必至にして而かも極めて急迫しつゝありとの認識も亦肯定されるのである。

米國の參戰……それは日本にとつて何を意味するか、言ふ

までもなく日、獨、伊三國同盟の誼に從つて條約義務を履行し敢然起つて協同の敵性支除に協力すべき結果を招來するであらうことは相像に難からざる所である。

惟ふに、國際形勢の急變、將に悲壯なる大戰前夜の光景を偲ばしむるに充分である。勿論締盟三國の心境の裡には豫じめ今日ある事を決意し、其脅やかされ來れる生命圏の確保に不動の姿勢をとり來つたことはいふまでもなかつた即ち來るべきものが來たのに過ぎないのである

こゝに余は斷言する、日本は支那事變によつて、資材、物資の消耗は相當程度に達してゐるが、更に新手を引受けて大規模戰を強行する爲めには政治、經濟、文化其他一切を擧げて一段の統制強化を必要とするは勿論、此の超非常時に對處する國民の人生觀をして世界觀をして、更に數段の崇高なる昂揚を要請せらるべきであると考へる。

事茲に及んでは凡べての小乘的過去を一掃し、萬端これ國防國家体制に歸一する爲め一切の再成編、再組織を斷行し、國民の各職分に應じてその實踐に忠誠をいたすべきである。

余はつくづく現下内外の狀勢を大觀し、愛國の至情己むことを得ず、所信の一端を述べて世の識者に愬へんとするものである。

昭和十六年一月下旬

大神田軍治誌す

一、新體制の認識

新体制とは

支那事變こゝに第五年目、更に、三國同盟を結んで世界新秩序建設へ乘り出したる日本の現狀は、實に乾坤一擲、國運を賭しての大事を決行しつゝある。

言ひ換へれば、喰ふか喰はれるかの問題であつて、こゝに高度國防國家の國内體制を確立して、是れに卽應せんとする全面的な新體制運動の勃興し來つたことは、蓋し當然と言はねばならぬ。

從つて新體制の本質は、徹頭徹尾「國防上の必要性を第

一義とする」性格の上に築かれねば意味をなさない。

即ち、政治、經濟、文化其他一切を擧げて、戰時的要請に適する再編成を斷行し、國防的見地のもとに其の經綸は極度に動員され、實踐に移さねばならない。

此必然の國家的要求が短期即決の戰時的見透しのつく間は、成可く國內摩擦を回避せんが爲め、各種の矛盾も撞著も包んだまゝ一擧に押通して、後日訂正補强の道もあるが事今日の如き長期戰不可避の見透しの下に於ては最早や許さる可きではない。

統制から計畫へ

勿論この革新を斷行するに當つては、一時の混亂はあら

う、殊に經濟的には最も周到なる計畫を樹立し、苟くも其準備なき間は寧ろ混亂による弊害の方が莫大であるから、容易に手をつけてはならないが、原則としては何としても速に躊躇することなく即行すべきである。

殊に產業經濟は、財政と睨み合はせて間然する所なき綜合計畫を樹立し、斷乎として統制經濟より計畫經濟の實踐へと進まねばならない。

(A) 經濟新體制の性格と方式

惟ふに長期戰に有終の美を收むるために、物心兩面にわたつて、不斷の强靱性が保持されることが絕對の要請であ

る。殊に國民の間に燃ゆるが如き戰鬪意識が恒に躍動しておらねばならぬことは勿論であるが、それにはよく事變の本質を理解せしむる必要がある。

戰爭の本質

今日の狀勢の、歐洲戰爭と亞細亞の戰爭とは事實上完全なる共同の戰線にあることはいふまでもない。卽ち英吉利亞米利加對日・獨・伊の戰爭であつて、世界戰爭の性格を完全に帶びてゐることは爭ふことは出來ない。

事こゝに及んでも猶國民の一部には、兎もすれば三國同盟の價値を批判し、內々、英米依存を口にする者があり、或は遠く支那事變についてまで云々の論議を試むる者があ

ることは、洵に戰爭遂行上の一大欠陷と言はねばならぬ。要するに此戰爭の由つて來る本質を理解せざるによる。

元來、世界戰爭の事今日に及べるは公式通りではないか當然來るべきものが來たといふに過ぎない。この小册では素より所說を完璧し得ざるも、一言にしてこれを盡さば、世界動搖の根原は英米の世界市場獨占に對する生きんが爲めの三國の奮起であつて、之れをしも甘受するを是とする者はヴエルサイユ體制下に奴隸として生きることを容認し自らの生存を否定し、憐れなる國際的殘滓に小康をぬすむを宿命と心得る現實主義者の一派である。

吾々は彼等に對し深刻なる反省を要求すると共に、名實共に新しき世界秩序の再建に努力をいたさねばならない。國內統一を欠き、理想なき戰爭が如何に無慙な結果のものであるかは、今次獨佛戰に徵するも頗る明白である。同時に戰費と財政及び國民經濟の關係を調整する一貫したる政策が、樹立實現せられねばならぬ。卽ち計畫經濟の進む處世に莫大の利得者も無い代りに、一人の餓ゆる者なき對策を必要とするのである。

端的に現實の實体から言ふならば、戰爭が消耗を必至とする限り一國の財政が膨脹することは、免れないのは當然

財政經濟の二方式

であるが、此膨脹財政を賄ふ爲めには、(1)國民經濟は多分の利潤追求を許して置て重稅で取り上げるか(2)或は又、公益優先の精神に則り初めから高率の利潤を抑へて國家への奉仕を强調するか、財政經濟の戰時的統制方式は此二つの一つを選ばねばならない。

然し、長期戰殊に日本精神の行き方としては、後者を以つて最善の道と余は確信するものである。こゝに同時に隨伴する問題は、此指導原理の前には當然國家は國民生活の安全を保証する責任があり、且つ廣義國防的見地より當然最小限度の生活を保証し、其安定をはかることは絕對の要

件なる事を忘れてはならぬ。

現狀を大觀するに經濟統制を斷行するに當り、一部の時局を認識せざる背德者の出現に驚き、産業の全面に向つて糞も懲りて膾を吹くが如く、正當なる利潤經濟を認めて居る反面、適正生産費に何等科學的檢討を加ふることもなく遮二無二機械的な統制手段を强行する現狀は、洵に危險千萬と言はねばならぬ。

正しき公平とは何か

生産の增强を目標とする經濟統制は、須らく經濟の厚生化を理念とする指導性の上に稠密なる統制が加へられねばならぬ。然るにこれ等の檢討も努力も拂はず、唯機械的な

抑制一本鎗の統制を加ふる限り、一體長期戰下の財界をどこへ持つて行くのであるか、否な戰時充足に不可缺なる生産手段はどうするのか。

同時に「公益優先、犧牲均分」の原則は天下何人も異論なき所であるが、こゝにも重要なる前提條件があることを忘れてはならぬ。卽ち、唯物的思想の一掃に努むる精神訓練勿論必要であるが、これのみで效果は決して擧がるものではない。唯徒らに、産業を統制し、經濟界を導くに何等有機的な、綜合的な、能率的な計畫經濟に根據する指導方針も、對策も講ずることなく、こゝにも亦機械的な均分主

義、公平主義を强行したらどうなる、成程公平にはなるかも知れないが、年を逐ふて生産は螺旋的に縮少し、經濟は萎縮し、一般國民生活は公平に貧乏になり、生活水準は低い所に公平化されるであらうことを考へねばならぬ。

仍ち、民間の創意、工夫を尊重し、適正物價、適正利潤に周到稠密なる科學的檢討を加へ、生産を益々旺盛ならしめ有機的綜合計畫が充分織り込まるゝことを必要とする。

また特に近時各種の企業統制の方式を見るに、國家總動員法其他の戰時立法によつて充分管理命令を徹底し得るに拘らず、强て民業を奪ひ、官製特殊會社の下に武士の商法

官僚の經營に吸收せんとしてゐる幾多の事實は多大の再檢討あつて然るべしと思ふものである。

要は、長期戰を戰ひ拔く爲めに、旺盛なる生産を保持しさらに一般産業經濟の上に、統制經濟より一歩を進めて計畫經濟へそして一日も早く有機的、綜合的、能率的に高度化し、而して其間に犧牲均分の方式を織りまぜて行くことが必要である。

この心構へと實踐とをなくして、從來の如き理想なく、秩序もなく頭から禁止的な統制の爲めの統制を强行すれば、産業を壓殺し、生産を萎縮し、國民經濟を疲弊せしめ、デ

リ貪的に戰爭力を低下し、遂に戰時的要請に逆行するの結果を齎す處れ充分である。經濟新體制は、深くこれ等の重要點に再檢討を加へねばならぬ。

其他、財政にしても、金融にしても、貿易にしても、目前の辻褄を合はす方途のみに眩惑して、進んで積極的計畫化へ突進するの態勢を忘れ、徒らに消極退嬰にその日その日を送る有樣は如何にも心細き限りである。

政府は最近の此傾向を何と見る。物資、資材の螺旋的漸減に反比例して、通貨の如きは大異狀を呈してゐることを。

（十五年末四十九億二千万圓）人體なら脈膊は非常に高く

なつて來た。呼吸困難の狀況にあることを証してゐるではないか。

統制がいくら强化しても、非計畫的な統制經濟の下に於ては、インフレーションの惡化は非常な危險を伴ふことは既に試驗濟みである。

曾つて、第一次歐洲大戰當時の獨逸を見よ。「强力な統制が發展すればする程インフレーションは惡性化して行つた」とシヤハトは「マルクの安定」の中に述べてゐるではないか。これは、當時の獨逸經濟が統制はされたが、計畫化されなかつたことに基くのであつて重要商品を公定し、價

格政策によつてインフレーションを抑止しやうとした獨逸政府の努力も失敗に歸したるは生々しい歴史の示す所である。重ねて云ふ。計畫化出來ない社會に於ては、如何に統制を強化しても、價格政策による物の側面からインフレーションを克服することは困難であることを。

天下一人のシヤハトなきか、天下一人のフンク出ざるか、いな天下無名の天才の出現を待望するの情、只管切なるものがある。

(B) 新體制と憲法

戰時國家の運營上、其緊急なる必要を充足する爲めに、舊

來の平時立法によつては間に合はぬ部門の生ずることは言ふを俟たない。仍ち、國家總動員法の如き廣汎無類の授權法が產まれた所以であつた。

極端に言ふならば、本法の發動する所、何でも出來ないものはない、所謂萬能法である。またそれだけ如何なる戰時的要請にも即應し得ることになつてゐるのである。

然るに本法を以つて猶足らずとしてか、新體制に名をかりて、憲法若くは憲法の精神に背反せんとする虞れある法制乃至實行を口にする者あるは、斷じて許さるべきではない。

然り、國家の生命は悠久である。天壤と共に窮まりなく相

次ぎ相傳へて、連綿として無窮に續くのである。仍ち、こ
こに恒久不斷の國礎を定め給ふ。神聖不可侵の憲法は一國
の存立を保全する根幹であつて、一點一劃と雖も時の流れ
や、時の爲政者の都合に變革さるべきものではない。
然るに世上稍もすれば時局に便乘して、勢の赴くところ
非常な飛躍的言議をなすものがある。兎もすれば、日本獨
得の憲法の埒外に逸脱し、無批判に伊太利の組合國家體制
乃至獨逸ナチス政治の直譯的體型を採用せむとするが如き
巷說を耳にする。一時の興奮とは言ひながら、吾人の斷じ
て與する能はざる所である。

吾人元より是等政治體制の裡にも、その內包する所の長
を採り、短を捨て之れを憲法の許す範圍內に於て日本的に
淳化し、國家總力の發揮に資する所あるに於ては、敢て否
むものではない。
然ながら、各國のその國情、傳統を究むることなく、唯
表面單純なる革新の名に陶醉し、戰時緊急の場合なりと呼
稱して、憲法の條章をこと更に曲解し、千古不磨の大典に
盛られたる大精神に背反することの無きやう、余は豫め强
く警告して置く次第である。
恭しく惟みるに、畏くも

明治天皇　憲法發布の勅語の中に

「現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス」

と宣はせられ、又憲法上諭の中には

「茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム」

と仰せられ、また

「朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ」

「朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ

義務ヲ負フヘシ」

と宣はせられたる憲法尊重の御軫念、洵に恐懼感激に堪へざるところである。

特に新體制は、立法、行政、統帥等相互の關係を嚴に明確にし、其等の紛淆を斷じて戒めねばならぬ。これによつてのみ國家は永遠に綱紀を張り、名分を維持し、嚴然として國家の規律と、威信と、大義との保たるゝ所以であるからである。戰時に於て切に此感を深からしむるものがある

最後に一言せんとすることは、何事も、勢の赴くところ遂に行き過ぎの弊が伴ひ勝ちのものである。從來政黨の弊

害は、苛烈なる政權爭奪にあつた。これを解消して、再出發するの擧に出でたことは當然のことであり、國民の要望する處である。さりながら、新体制が過去を攻むるに急にして犬糞的にこゝさらに既成政治家を完封し、其活動を斷ぜんとするが如きことあらば、これ正に行き過ぎの甚だしきものと言はねばならぬ。

試みに抽象論は別として、仔細に現代政治家の各個人につき其人物を吟味せよ。如何なる社會にも多少の例外はあるとしても、何れも其地方に於ける有爲の人材が選ばれてゐることを發見するであらう。

然るに、世には他を排して、己および己れの屬する社會なり、團體なりによつてとつて代らむとするの餘り、ことさらに排擊的言議をたてる者がある。吾々はその樣な時局便乘的利己主義こそ排斥せねばならぬと信ずるものである特に革新の名に乘じ、內容空漠にして徒らに無責任なる硬論を吐き、安價なる人氣を博して自己陶醉に生きる人物、甚だしきは世人をして、僞裝轉向者にあらずやこの疑ひを抱かしむるが如き人物が、要路に颯爽として登場し來るが如きことあらば、革新途上の一大悲劇であり、國民の期待する新体制を裏切るものと言はねばならぬ。

政府も、大政翼賛會も、人事の簡拔に當り、奇矯なる擢用を深く戒むるところあらねばならぬを主張する。

二、新體制下に於ける政治家の態度

獨斷行動としての政治家の責任

時艱急なるの秋、內に國民的結束力を欠き抗爭、摩擦を包藏しつゝ外に戰爭遂行をなすごときは不可能に近い。故に政治の局に當るものは、己を戒むるには嚴にして、他を攻むるに寬なるを要するところである。特に政治家の言動は國民の聲として、しかも國論の動向を打診する上に於て、敵方も又最も注目する點であるからは責任最も重し

とせねばならぬ。苟くも政治家の一言一行は、內に國民の耳朶をうち、重慶に、第三國に音の響きに應ずるが如く傳播し、聽て一塊の素材は誇張と揑造とを經て、有力な敵方の宣傳資料に供せらるゝ譯けである。

支那側の戰爭觀

吾々が驚くべき事は、今日支那側に於て、戰爭に敗けたと認識してゐる者はないことまで言はれてゐる。日本は遠からず經濟戰に破れて、あたかも引潮のやうに大軍を支那より撤退するであらうと見てゐるといふことである。

三國同盟締結後に於ける米國の對日態度の急變、或は今日までも東洋の味方と、吾れ人共に見てゐた泰國までが、

其態度が變態狀勢を呈してゐるのは何の爲めだ。これ敵方の聽音機に入つて行く、宣傳戰の結果に外ならないのである。この最近の傾向を省みて、客觀狀勢に眞劍なる再檢討を加ふると同時に政治家の動向は特に愼重を必要とするに至つたのである。

合閣に立つた心持ち

即ち政治家の行動は、深く思ひをこゝに致し、凡べて戰時的要求、則ち敵前行動としての態度に忠實でなければならぬ。內に對しては、政治家たる者皆自分が臺閣に立つてゐるといふ心持ちで、實行し得る政策を基調としての立論協力を惜んではならない。外に對しては不必要なる刺戟、

不必要なる摩擦を釀成せざるやう、政府、議會の呼吸が一元化する有機性がなければならぬ。

新體制の下、大政翼贊會は其職分をこゝに置いた譯であるが、內包する所に無理があつたら、其表裏一體とやらは却つて支離滅裂、拾收のつかざる混亂に陷る虞れがある

若し夫れ、其等の混亂の後に來る事態は必然に强權的政治體制なること否み得ないものと覺悟せねばならぬ。此意味に於て大政翼贊會の運用、議會人の責任は頗る深大なりと言はねばならぬ。

日本に、國民代表としての議會がなければ即ち止む。あ

る以上は政府は克く國民の聲に聽き、政府は素直に民意のある所を尊重すると共に、國民も亦政府の意を體し、渾然一體となつて、戰時協力の大責任完遂に熱意を示さねばならぬ。

輿論の低調

然るに、これまでの國民の聲を代表する議會言論が、切りに其低調を非難されて來たことは大に戒心を要す。

低調といふ意味は、國民の言はんとすることを言はないといふ意味もあらう。それは政治的影響を考慮してやむを得ないとしても、國民は今や堪え切れなくなつて來たのであつて、議會の新體制如何は國民の大に期待してゐる所で

ある。

こゝに於て政治家の任務はよく國民の聲に聽きよく國民を指導し、政府と一体となつて、政治の運營に萬全を期して貰ひたい。故に政治家の行動は、天下の重きに任ずる權威と救國濟世の熱意が躍動してゐなければならぬ。

國内抗爭を事とする者は反亂罪

若し權勢慾や、賣名の爲め天下の公器を亂用する者あらば、國民は斷乎として快及を振はねばならぬ。

時は戰時である。敵前行動である。國家の興亡をかけて戰つてゐる此際、徒らに國内抗爭を事とする官僚並に政治家あらば、反亂罪を以つて處する可なりと思ふのである。

余は日本の政治的戰時態勢を整調する爲め朝野の猛省を促すること切なるものがある。敢て苦言を呈し、一日も早く眞個の日本の姿を顯現せんことを望んで止まない。

三、議會の能率增進策

國民から遊離する議會の論戰

從來、議會が民衆から遊離してゐるとの非難があつた。あながち非難を非難として片付けて置く譯けには參らぬ。議會の實情が、何よりの證據である。先づ議會が開けると總理大臣が施政方針演說が二十分位づゝある。續いて外務大臣、大藏大臣の演說が各三十分位づゝある。こゝに內閣

の基本政策を示すのであるが、毒にも藥にもならぬことばかりを羅列してゐる。言はゞきまり切つた紋切型のことばかり、丁度中學校の公民讀本を讀むやうなものである。

眞に國民の要望するところは、國家內外の重要諸問題に對處する政府の盛んなる經綸である。而して其經綸を政策化したる確乎たる施設、積極的なる國民への敎書を聽かんと欲してゐるのである。

空漠なる施政方針演說

然るに、演說の內容は例によつて版で押したやうに當らず觸らず、而かも萬能藥でも宣傳するやうに、何んにでも効くやうに粉飾されてゐる、煎じつめれば空々漠々何んに

もない。議員にも判らない、況んや國民は尙更判らない。それも其筈、成可く攻撃されぬやう何物も掴めないやうに多くの屬僚によつて、豫じめ原稿がねり上げられ、大臣はそれを棒讀するだけのことだからである。

一片寂寥の感なきを得す

國民が戰時の緊張に燃えて、一言一句、今後の國策に望みをかけ一日も早く濟國の經綸を聽かんとしてゐるのに、相も變らず歷代內閣何れも此仕末、國民の胸中、一片寂寥の感なきを得ないものがあるのは當然である。特に戰時議會に於て、然りである。いよ〳〵議員の質問に移ると、それ〴〵の代表者が起つて、大同小異の質議が繰返される。

出し吝しみの空答辯

此場合こそ政府は議會を通じて國民に呼びかける絕好の機會を得たのであるが其答辯がまた簡單に過ぎて要領を得ない。こゝにも詮ずるところ、政府は何も言はない。委員會の手に移り、一問一答。根掘り、葉掘り同じことを數人、十數人かゝつて繰返す、時間を空費し濫費し、此間政府は秘藏の答辯をポツリ〳〵と言ふのである。言ふべきものなら初めから自ら進んで言ふたらよさゝうなものを出し吝みをしながら、穿鑿を俟つて澁々言はぬでもよさゝうなものを、政府の態度は成可く物を言はぬで濟むものは言ふまい主義で通さうとする惡い癖がある。

即ち知らせずに、できるだけ國民の批判を避けて、政府の一存で押し通さうとするのである。政府の考へ方が斯くある以上、政府の意圖が國民には判る譯はない。こゝに即ち政府が國民から遊離する大きな源があるのである。戰時徹底的に事態の始終を了解せしめれば、政府が押しつけせずとも、日本獨得の祖國愛は必ずや、外國に見ることの出來ない熾烈な戰時協力の行動となつてもり上つて來るに相違ない。

國民協力の源泉を考慮せよ

事態の眞相をひたかくしにして、唯、協力が足らぬとか自由主義がどうとか言ふて見ても、畢竟、政府自ら過去の

政府は過去の態度を一擲せよ

態度に修正を加へざる限り、それは政府が無理といふもの だ。勿論、政府の言明が戰爭遂行に支障ある場合もある。然し國民は其位のことは百も承知してゐる。國際的に秘密を要すること、國內的に衝擊を與ふること、そんな機密まで も聽かうといふのではない。機密は機密として尊重する裕りは、今日の國民に充分了解されてゐるのだ。何もかもヒタかくしに蔽はんとする所に却つてあらぬ疑惑と危懼を惹き起し、そこに思はぬ混亂が襲來するのである。

政府は深く國民心理の動向に注目して、其協力に遺憾なきを期し、所謂國家總力發揮の源泉を掴む心理的考察に一

段の工夫を要するのである。

議員質問に反駁の妙用を知れ

特に議會に於ける議員の質問に對しては、若し假りに政府が事變處理に支障ありと認めても、其質問こそ絶好なる對外宣傳の機として逸せず、之れを利用する妙用がなければならぬ。

例へば往年、齋藤君の質問の如き場合は、政府は直ちに起つて所論に誤りあらば之を反駁し、これを粉碎する明敏さが必要であつた。かゝる場合こそ政府の抱懷する方針を明示して、世の惑ひを解く好機であるから勇敢に力強く國民に向つて、否世界に向つて說くところがなければならぬ

おそらく齋藤氏の心意の裡にも、政府をして國の內外に呼びかくる具體的機會を與ふる意味もあつたことゝ思はれる。

これこそ獨裁國に見ることの出來ない議會國の效果であり、特權である。然るに政府は、これを爲すことを忘れてゐた。翌日に至つて、思ひ出したやうにメモに書いて來て短かい反駁をしたに過ぎなかつた。

政府が眞に議會政治の妙用を心得てゐたならば、一世を啓蒙し、指導し、力强く國家の威信を中外に宣傳すると共に、國民の信を集結する百パーセントの效果をおさめる尊い時であつたのだ。然るに、政府の議會に對する遊離狀況

は遺憾なく暴露し、洵に殘念であつた。

ダラシのない議員の質問

議員も亦、時正に戰時であることを、深く心に銘して議會に臨む必要があること勿論、だからと言つて、質問をするなといふ意味ではない。もう少し所論に豊富なる建設的指導精神の横溢した所謂實のある質問を、素直に、簡潔にする必要がある。

同じことを入り代り、たち代り二時間も三時間もダラダラとやつてゐる態は、春日悠暢の感、平時議會でも倦怠を催すものである。其裡には、何の爲めに質問してゐるのか譯けの解らぬことを長々と述べて政府の答へやうのないものや、甚だしいのになると村會か、縣會と間違へたやうな地方問題や、自分の職業の法廷敗け戰の鬱憤晴らしや、不便な經濟統制の鬱憤晴らしをやるもの、選擧の投票を目當とした賣名第一主義の議論も飛び出すといふ有樣である。

一國の代表として、殊に戰時に於ける重大責任ある議員としては、豫算の隨所に戰時國策が盛られてゐるのであるから、眞面目に檢討したならば問題は到る所にころがつてゐる筈であるのに、此態たらくを見たら大概ウンザリせずには居られまい。否な憤慨の情激發せずには居られまい。

國民は大切な青年子弟を戰場に送り、翁は家にあつて銃

後を守り、女も子供も共に戰時と思へばこそ、あらゆる困苦缺乏に堪へて頑張り續けてゐるのだ。軍のことは軍に、政治のことは政府、議會に一意賴つてゐることを銘記せられたい。然るに議員はダラシのない質問を繰返し、政府は答へ吝むやうな聞き榮えのしない答辯を爲しつゝある有樣で、どうして急迫した國内態勢に善處するか。重慶を打ちのめす迫力を鼓舞し、犇々と加はる第三國の壓力に對抗し得るのか、心細いこと限りなしである。

議會といふものがある以上は、もつと生氣潑剌たる論戰の効果、能率をあげる必要がある。現狀のまゝでは斷じて

いけない。議會の新體制果して如何？

さるにても國家の内外は奔流の如く變轉しつゝある。大和民族の名譽の爲めに、現狀を眞に憂ふる者、豈獨り著者のみではあるまい。

政府、議會、一段の眞劍味を發揮せよ

四、政治的謀略抗爭の秋にあらず

(B) 世界の戰時態勢概觀

古今東西の歷史の示す通り、一國が非常時をむかふるや如何に國内抗爭が激しいときでも無條件でこれを斷ち國難

に赴くの至誠あるは皆一である。たとへそれが經濟的利害の鬪爭であらうと、政治的抗爭であらうと、苟くも國內態勢を紊す虞れあるものは凡べて己れを捨て、公に殉ずるのである。一國の非常時に當つて、ひとり私鬪をやめざるは舊支那の軍閥であつたが、その支那と雖も今は、一蔣介石の下に天晴れなる擧國一致の態勢を示してゐる。

日本の勞資鬪爭止む

日本に於ても、勞資の經濟鬪爭は、事變前までは相當激しかつたが、この度の大事變と共に一切の鬪爭はハタと止み、勤勞報國の名に背かず、戰時奉公の誠をいたしつゝあるは、洵に美しいことである。これぞ大和民族の誇りであ

り、悠久幾千年の歷史の、かく續いて來た所以である。

戰時における經濟鬪爭の有害なるは勿論であるが、政治の不安は更に一層有害である。

戰時下の政治鬪爭更に有害

言ふまでもなく政治の抗爭は民心の全體を搖がし、戰時諸政策の樹立、運用、共にこれによつて戰時協力をそれだけ弛緩せしめ、仍て以つて社會不安を生み、政治の能力を減殺し、國民をしてむかふ所を無からしめ、混亂と無秩序とを現出せずには置かない。今次の佛國の敗戰は蓋し何物よりも雄辯にこれを證してゐる。

戰時下に私黨の抗爭は不忠不義

若し、日本の政治家の裡に、何等政策上に據るべき理念

なく、唯自分達の政權慾の爲に相爭ひ、私鬪を繰返す輩があつたならば、それこそ戰時を辨へぬ不忠不義、戰時下に於て斷じて許し難き存在である。國民は重大なる關心を以つて監視せんとするものである。

政局の安定は世界の趨勢

世界を搖り動かす第二大戰に際會し、何れの國も、準戰時體制乃至戰時體制に大童になつてゐる。いづれの國も政治の安定を第一義とし、不動の姿勢、不動の構へをしてゐる事實を他山の石として深く檢討考察せらるべきである。

伊太利は十八ケ年の政權安固

以下順次に大觀して見やう。

伊太利は、今や地中海を挾んで英國との死鬪を續けてゐ

るが、顧みれば第一次歐洲大戰後、將に累卵の危きに瀕してゐた。怪傑ムツソリーニ出でゝ庶政を改革し、鐵血政策よく國內の混亂を芟除し、こゝに確乎不動の政治を整ふるを得て爾來星霜十九ケ年、擧國一致ムツソリーニの政治を支持し微動もしない態勢にあることは餘りにも有名である。

獨逸は八ケ

獨逸は如何に、第一次大戰によつて一敗地に塗れ、再び起つ能はざるドン底につき落された。潰滅廢墟の國情、盤根錯節の社會狀勢、眞に涙なき能はざる有樣であつたが、英傑ヒツトラー、これまた鐵血政策よく國內を整調してこに八ケ年、兎も角今日の地歩を獲得し、ヴエルサイユ體

制を破棄して、民族國家建設の雄圖を遂げんと烈々たる氣を吐いてゐる。今や、墺太利、チエツコを併せ、ポーランドを征し、諾威を降し、和蘭、白耳義、佛蘭西を蹂躙し、一擧大英帝國を壓殺せんとする快擧を決行しつゝある。而かも克く國民は困苦欠乏を忍び、一致協力、ヒツトラー政治を支持してゐる有樣である。おそらく將來とも、永く政權不動の姿勢に變ることはあるまい。」

スターリン政權こゝに十四年

蘇聯スターリン政權の彈壓政治こゝに十四年、政治形式の是非は別として、これまた國内整調微動だもさせない。殊に國際紛糾に超然として、内に營々膨脹の準備時代を脱

し、世界動亂の機を摑んで、北歐に、東亞に、其魔手を延はして來た。

以上は右翼、左翼の差こそあれ、何れも長期に亘り政治の安定に不動の態勢を示してゐる實例である。

獨裁國の政治安定は、日本の範とするに足らぬと言ふ者あらば、民主主義國家の政情如何を檢討して見やう。

米國はルーズベルト政府三期永續

米國はルーズベルト大統領就任以來こゝに三期。此間、一失業對策に苦しみ、一千二百萬人の生活を救ふニユー・デイールは、屢々失敗を續けた。而かも國民は克くこれを援けて遂にこれを克服せしめ、三度大統領として仰いでゐる

國情を何と見るや。

英國は十一ケ年に四度目

英國はどうだ。マクドナルド首相の引退より現首相に至るまで僅々内閣は四度しか變つてゐない。而して何れも止むを得ざる事情によつて、圓滿なる政權の受授が行はれ、今や文字通りの死闘を續けつゝも、而かも今や自由主義的思想の下には到底許されない程度の強力な統制を國民は嬉んで支持してゐるではないか。

政變の國佛國も二ケ年餘

佛蘭西はどうだ。世界中で政變の最も激烈な國、内閣の平均の壽命は僅々二ケ月半とされてゐる。それが一昨々年四月、第二次ブルム内閣崩壞代つてダラディエ内閣の成立するや、左翼政治を追ひ、内政上の安定を整へ、國民またよくこれを支持して、何等の動搖も見せず、政變を抑へて對獨戰爭に專念してゐた。圖らずも、北佛戰線に一敗地に塗れ、現にペタン元帥を首席とする内閣との更迭を餘儀なくされたのである。

以上、極めて簡單に世界有數の諸國家の政情を述べた。世界の大動亂を體驗しつゝある諸國、殊に交戰狀態にある諸國が、一意時の政府を支持して政變を起さず、搖ぎなき政治の安定、國内整調の實を擧げてゐることを考へたなら日本の政變相次ぐ政治的戰時態勢が、これで好いのだとい

相次ぐ日本の政變を何と見る

ふことは斷じて言へない筈である。政府も、議會も、もう少し大國民の襟度と、聰明な判斷と、冷嚴な理性の力で動かねばなるまい。

(B) 政變相次ぐ日本の戰時態勢

喰ふか喰はれるかの大戰時だ

世界を通ずる大動搖、國土を賭して相爭ふ大戰時、喰ふか喰はれるか、國家興廢の大非常時各國は何れも國內抗爭を止めて、一意內政を整調擧國一致の態勢にあることは上述した通りである。

顧みて日本の政治は如何。平時と雖も許し難き不安政情を今猶續けつゝある現下の狀態は、眞に憂國の情に堪えない。昭和九年、齋藤內閣の後をうけた岡田內閣より七ケ年のその間廣田、林、近衞、平沼、阿部、米內、現近衞內閣に至る實に八回の政變を繰返した。平均して每年政變を繰返してゐる形である。此間に外務大臣の更迭をみること實に十二回、殊に最近四ケ年平均二人以上といふ慌しさである。漸く國務が解りかけた頃には既に倒閣の運命が待つてゐる。これでは確乎たる國策の完遂などありやう筈はない。

政變七年に八回

外相は過七ケ年に十二回

政府は神ではない

政府は神ではない、人間の行ふことに多少の手ぬかりを生ずることは當然だが、少し氣にくはねば直ぐに倒閣にかかる。少し意に滿たねば忽ち雲散霧消する、斯くて果てし

無き政變に明け、政變に暮れる。これが日本の戰時態勢なり。識者は何と見るか。

國內情勢も看みず

他面に於て、國內の財政、經濟、產業、あらゆる部門に年を逐ふて異常な態樣が露出して來る。これに對處すべき國策は、頻々たる政變によつて足が地につかない。政策の貧困、豈偶然ならんやである。僅かに附け燒刃の應急措置其日暮しの政策に終始するは蓋しこれまた理の當然と言はねばならぬ。

政策の貧困偶然にあらず

識者よ現態勢を何と見る

世の識者よ、政治家よ、靜かに汝の興奮を收めて、日本の現狀を三省せよ。今日本の憂患の一つは、相次ぐ政變に

ある。事情に通ずる遑なき閣僚が、入り代りたち代り、臺閣につらなつて事を處するの結果は當然に、政策の貧困となり世を擧げて苦しみ拔いてゐるではないか。

世界政治の動向と、日本政治の動向とを、よく〳〵對比して考へて賞ひたい。同時に、日本は戰時危急の巖頭に起つてゐる事實を、嚴肅に三思三省せられたい。

五、國內の政治態勢是正の道

政治の整調が先決

一國の進運は、まづ政治の適格なりや否やが先行すること、何人も異論はあるまい。政治の整調あつて、社會不安

は絶滅する。金が無からうが、物が不足しやうが無いことを標準とした結果の下に、國民は滿足して國家目的達成に協力して行くのだ。

長期戰に平時經濟はあり得ない

元來、如何なる國でも、大規模な近代戰を四年も五年も續けて行けば、平時經濟そのまゝでゆける道理はない。消耗戰の永續する限り自然に經濟苦難の境地に到達するは必至である。

何もかも政府の責任として責めるの愚

如何に偉大な政治家の手によらうとも、無から有を產ましむる妙法はあり得ない。同時にまた、人間のすることであるから、不測の齟齬を來す場合もあれば、國際變局の影

響から來る計劃違ひもある。況んや天災によつて豫定計畫に狂ひを生ずるの已むを得ない場合もある。

それを何もかも一概に政府が對策よろしきを得ないからだとして、其度毎に政府を更へて見たとて、それは根本に於て無理がある。誰がやつたとて、起死回生の妙策が產まれる筈はないからである。

故に政府にして誤りあらば、これを補正し、力が足らねば力を加へてやる寬容さがなければならぬ。天災や、國際的變局によつて政府の計畫に支障を生じたなら、これが再建に協力してやる親切がなければならぬ。況んや戰時であ

る、相手がある。

倒閣に沒頭する輩を衝く

然るに原因の如如を問はずに、政府の計畫に齟齬あらば鬼の首でもとつたやうに直ちに其責任を糾彈し、ことさらに事態を暴露し、甚だしきは倒閣に利用するなどは、全く戰時を辨へぬ不屈ものと言ふべきである。

これは畢竟するに、多年沒頭して來つた政權爭奪の根性が、時を嫌はず、所構はずに發散する惡弊で、これこそ斷乎是正せらるべきものである。

軍の政治干與を戒む

また、從來重大政治問題が起こると、「軍の總意」なるものが新聞紙上に發表せらるゝのであるが、政治上軍の總

意と認むべき形式は、當該大臣の述ぶる以外にはあり得ない筈である。思ふに、これは「軍人行政に關係ある一部の軍人」と「軍」とを混同し、輕卒にも軍の總意などと稱するのであらうが、これらの總意と傳へらるゝ意見が、今日政治上の動向を支配する大きな役割を演じつゝあることは否まれない。これが果たして適當なりや否や大に檢討せらるべき性質のものであると心得る。

此の所謂「軍の總意」として傳へらるゝ意見が、政治を動かし、若くは動かしたと思はれる事は一再に止まらなかつた。それによつて內閣が出來そこなつたこともあるやう

である。

尤もそれ等の噂の中には、唯一般世上に左樣に信じられ噂されたるに留まつて、所謂確實に軍の總意なるものが、筋途をたてゝ斯うしたといふ內容の解つてゐないにしても兎も角世上「軍」こそ日本の政治上の推進力なりと內外に宣傳せらるゝことは、眞に憂ふべき傾向と言はねばならぬ

殊に、さきに第七十五議會に於ける齋藤氏懲罰問題の如き、二月十四日の東京朝日新聞には「軍部と政府との意見强硬である爲め、同氏は遂に除名になるだらう」と書いてあつた。而して其他の新聞も皆一樣に同樣の記事を掲げて

ゐたが其意味は、衆議院に於ける處分が出席停止程度に止まるならば、政府は衆議院の反省を求むる爲めに停會を奏請すべしとの議さへあるといふのである。これ等の記事が果してどれだけの信を置くべきかは不明であるが、當時一般に流布された噂と一致してゐる。

軍部とは陸軍大臣なのか、政府とは總理大臣の意見なのか、孰れにしても行政府から立法府の懲罰までも支配せんとすることは流にもつて驚き入つたことゝ言はねばならぬ

國民は、かゝる事態よりして、軍人の政治干與の印象を强くうくるのであつて、軍自身の爲めにも非常な不幸と言

はねばならぬ。

統帥、立法、行政の三權各嚴として秩序を保ち、相剋摩擦を排して一糸亂れぬ職分奉公、大政翼賛の完遂こそ戰時の要諦である。

然るに、事變處理の重大時期に當り、國内相剋繁く政局の安定を得ず、出來る内閣も、皆短命に終らしめたる政治的戰時態勢は、決して時代の要求に合致する所以にあらず

責めらるべきは政治家である

余は軍人の政治干與を極力否とするものであるが、同時に責められるべきは政治家であると思ふ。若し政治家にして識見高く、確乎たる國政擔當の實力があるならば、軍人

が政治に干與する餘地もなければ、必要もなくなるのである。畢竟するに、政治家の國民的信頼を一日も早く取戻すことが先決である。

神皇正統記の一節

神皇正統記に仕官の道を說いた一節に「仕官するにとりて文武の二道あり。坐して以て道を論ずるは文士の道なり この道に明かならば相とするに堪へたり。征きて以て功を立つるは武人のわざなり。このわざに譽あらば將とするに足れり。されば文武の二は暫くも捨て給ふべからず。世亂れたる時は、武を右とし、文を左にす。國治まれる時は、文を右にし、武を左にすといへり。（古は右を上にす、よりてしかいふなり）かくの

如く樣々なる道を用ゐて、民の愁をやすめ、各あらそひなからしめん事を本とすべし」と書いてある。

元來が文武の道は自ら明瞭であり、何等相剋のあるべき筈はないのである。然るに、戰時彌が上にも擧國一致を要するの時、世界にも類例を見ざる政變相次ぐこの時代相は決して順調にある國情とは言はれない。

見渡せば、政界に人なく、野に毅然たる大國民的襟度なく、處士横議、以つて政治不安、社會不安、經濟不安を釀す虞れあることは、眞に慨嘆至極である。

余は忍び難きを忍び、敢て苦言を呈する。今にして改む

政變病に罹つた日本政治

る所なくんば、重大結果を迎ふるに至るべきは眞に憂慮にたえない。

端的に直言す。今や日本は、事變處理の重大時局下にいたましくも、政變病にかゝつてゐる。新らしい內閣が出來ると同時に、此內閣は幾月、と直ぐ壽命を考へられる。これはたしかに健康體ではない証據である。病原あるに相違ない。それは各種の黴菌があるからだ。然し考へねばならぬ事は、黴菌そのものが病氣ではないので、その繁殖を許す身体が病氣であることを、深く自省するところがなければならぬ。

政府も、軍部も、政治家も相携へて進め、互に緊密なる協同の下に一体となつて。職域奉公、臣道實踐、大政翼賛われ〳〵日本人が眞に赤裸の一日本人として更生の道を直進し得るや否やが、日本の運命を決する。今に及んでは百の議論も無用。一死君國に報ずる赤誠のみ救國濟世の道であり、世界新秩序建設の道である。

六、官僚反省の秋

官僚獨善の弊、いよ〳〵出でて、いよ〳〵著しく、如何にしても國民は堪えきれなくなつて來た。

官僚獨善の弊いよいよ捨て置き難し

最近の木炭、米穀、石炭其他生産擴充乃至國民生活必需品の供給不圓滑を極め、國民の政府經濟統制能力に對する不信は勃然としておこり、適切なる措置の要望は囂々として巷に滿ちて來た。

いつまでたつても、禁止的統制經濟から一歩も出ない。いゝ加減に、計畫經濟の片鱗を見せても好い時分である。

ツギハギ的經濟統制

宜なる哉！「官僚は何をしてゐる」との聲は、最早蔽ふべからざるものとなつて來た。これもとより不可抗力の突發事情もあるが、ツギハギ的經濟統制による不自然なる物資不足現象、物價騰貴の變態的現象を來たしたるは、明かに

官僚の經濟政策に對する有機的計畫欠除の現はれである。

惟ふに、今次歐洲大戰勃發するや英・獨・佛の諸國は初から長期戰の構へを見せ、生產、配給、消費の各部門に、思ひ切つた戰時體制を整へてゐる。いづれも曾ての大戰の經驗に則り、いち早く其緒についた爲め、さしたる混亂なく、秩序ある國民生活を規整し得たのである。

然るに日本は如何。戰爭勃發後、約一ケ年は大體に於て平時の經濟體制のまゝであつた。國民經濟の戰時態勢は漸く十三年六月その緒につき全面的統制體系を整へたのは、十四年四月二十七日、「物價統制大綱」を閣議に決したそ

れ以後のことである。

かゝる間、歐洲大戰の勃發あり、相次ぐ天災の如き豫期せざる事態發生し（天災と雖も日本の樣な國柄では相當考慮の中に入れて豫じめ計畫に置く必要がある）未だ本格的戰時統制體系の整備せざるに先立つて、非常なる打擊をうけて重大化するに至つた。即ち、政府の戰爭認識はその見透しを誤り、あまりにも緩漫に過ぎたる戰時對策は、各所に手後れ的破綻を續出し、物資、勞力、物價何れも異變現象を露呈するに至つたのである。

これ戰時經濟の運營上、一時を糊塗する官僚の事勿れ主

義の餘弊であつて、その不信は國民の看過し得ざるに至つたのである。

各省割據の弊

更に行政機構の上に於て、各省割據、物動計畫は、これが實行の衝にあるべき官廳の間に、熱意と見解と合致せざること頗る大なるものがある。即ち、物動計畫は企畫院に於て、これが實行は各省に於て受持つ結果、兩者の間に一元的綜合性乏しく、且つ各省各其固有の省に立てこもり、互に責任のナスリ合ひに暮れ、障壁突破の信念にかくる結果、計畫と實行が遊離するに至るのである。

現機構は統制經濟に適せず

元來各省の行政區劃は、自由經濟時代を標準として分け

られたもので、統制經濟時代に於ては、同一の事項が數省に亘り、ひいては主管省不明となり、緊急なる對策の實行に頗る不圓滑を來すは當然であつた。

例へば、一俵の炭を東京へ出すのに、產地では農林省の所管、鐵道に積むのに鐵道省、商品として販賣するには低物價主義の商工省、其販賣方法に內務省、司法省の眼が光る。此間、集荷に地方廳の精細なる許可が物を言ふ。これでは木炭の供給が圓滑に行く道理はない。而して消費の方はと言へば、ガソリン代用として、更に石炭、瓦斯、電力の消費規正の結果としての木炭代用が激增してゐるに拘ら

ず、木炭消費規正對策は最近のことである。嚴寒期に入つて木炭問題の起るのは當然である。

其他の一般物資概ねかうした經過にあるのだから、チグハグな官僚統制は、隨所に破綻して來たのである。

官僚の人的要素にメスを入れよ

要するに官僚の機構が既に改革を要するは明瞭であるが同時に官僚の人的要素にメスを入れなければ、圓滿なる戰時經濟の運營は困難となつて來た。

即ち經濟の運營には、將來への見透力、洞察力、而して全体的、綜合的にモノを考へる優秀なる人材がどうしても必要である。（詳細は拙著日本はどうなる第一輯參照）

獨善の扉を開放せよ

今にして、戰時經濟態勢の有機的な改善を加ふるにあらざれば、臍を噛むとも及ばざる結果を招來する。速かに官僚獨善の扉を解放し、戰時經濟を一元化する大經濟省を設定せよ。同時に民間達識の士を活用し、驅使し、全生命を打ち込んで、官民一致の組織化を完成せよ。現在の官僚は新体制を逆に自己護身の具に供せんとするものあり。

殊に一般國民に臨む官吏の態度はますます權柄づくな、横柄な態度は、民衆の反感を挑發する以外の何物でもない治めらるゝ者の心を以つて治むる官僚道こそ此際是非に確立する必要がある。

七、國民の戰時道德再建の要あり

戰時經濟の性格を認識せよ

戰時經濟の性格が、未だ國民に充分認識されてゐない傾きのあるのは遺憾である。

例へば物價にしろ、統制の不徹底の爲めに、必要以上に不圓滑になつてゐる事情もあるが國民が戰時經濟の本質を了解し、困るなら皆なで困らうといふ落ちつきと公共心があれば、そんなに窮屈せずに濟むのである。

物資の假需要增大

己れ一人だけは食ふ物も充分に着るものは充分にとあつて、協同心に缺けてゐては、物の假需要はます〳〵增大し

物は平年の何倍あつても足りるものではない。從つて物價も亦騰貴するが、必至の運命である。

低物價政策の意義

更に物價が騰つたから、生活費が上つたから、賃銀給料を上げろといふ議論が起る。農村では、一般物價が上つたから米の値段を上げろといふ。資本家は、品物の製產費が上つたから價格を上げねばやれないといふ。

何れも一應は尤もな理窟ではあるが、斯うして國民が事變前の生活を標準にして、平時の生活を確保せんとするならば、戰爭は出來る譯けはないのである。

物價と財政の關係

平時經濟の頭で賃銀を、價格を上げろ〳〵で行つたらど

うなるか。財政は果しなく膨脹する、物價と財政との關係が廻り燈籠のやうに互に追ひかけ合ひ遂に破綻の境地にたつ事は火を見るよりも瞭かである。政府が、難きを忍んで低物價政策を固持する所以は全くこゝにある。

此際、國民は相當困難を覺悟し、實行して行かなければ戰爭は止めるより外に道はなくなる。國民の中には未だこの戰時經濟の認識に充分でない者がある。また政府の戰爭目標、その經過についての說明も宣傳も行き屆いてゐない点も大にある。

闇相場の横行

何よりの証據に、最近闇相場による法外な物價の横行は

眼に餘るものがあるではないか。こんな出鱈目な戰時經濟を續けて行けば遂には國民經濟は根本から潰滅し去るであらう。

正直なものは損だ。儲けるだけ儲けろといふ闇取引は、道德基礎を根本から破壞し、支離滅裂時代が來ることは必然である。

こんなことをして居れば道義地を拂ひ、經濟は亡び、財政は破綻するのみであつて武力戰で勝つた戰果も、皇軍の犧牲も空しく、經濟戰に破れる虞れがある。

而かも蔣介石は、日本にこの現象の一日も早やかれと待

つてゐる、その思ふ壺に丁度はまるのである。

實に不當なる闇相場の取引を事とするは、蔣介石の味方をしてゐると少しも變りはない。國内の敵である。誰も重慶政府に味方してゐると思つてやつてゐる者はなからうが實はまがふかたなき重慶政府の味方である。

重ねて言ふ、日本の敵は蔣介石である。重慶政府である而して闇相場で經濟を攪亂する者は、蔣介石に劣らぬ日本の敵である。

死を賭し、鮮血に塗れて戰つてゐる皇軍の犧牲を忘れて敵の味方をしてゐるは、心情以つて蔣介石以上の憎むべき

敵である。

思ひこゝに到れば、今日の日本の世相に悲憤の涙呑む者豈獨り著者だけではないと信ずる。余は血涙をしぼつて、日本國民の憂國の至情に訴へるものである。

八、皇恩無窮

紛々擾々たる戰時體制下、國民よ利害休戚を一擲せよ。端座襟を正しうして、聖慮の御前に恭しく首を垂れよ。

明治天皇御製

戰のにはのおとづれいかにぞと
　ねやにも入らずまちにこそまて

わがこゝろ千里の道をいつこえて
　軍の場をゆめにみつらむ

曉をしらずといへる春ながら
　ことしは夢もやすくむすばず

ひさしくもいくさのにはにたつ人は
　家なる親をさぞ思ふらむ

故郷を遠くはなれていくさ人
　花のさかりもしらずやあるらむ

たゝかひに身をすつる人多きかな
　おいたる親を家にのこして

はからずも夜をふかしけりくにのため
命をすてし人をかぞへて

國の爲めたふれし人を惜むにも
思ふはおやのこゝろなりけり

年へなば國のちからとなりぬべき
人をおほくも失ひにけり

みなし子にかたりきかせよ國のため
命すてにし親のいさをを

たゝかひの場にすゝみて乘る人と
共にたふれし駒はいくらぞ

照るにつけくもるにつけて思ふかな
わが民草のうへはいかにと

神垣に朝まゐりしていのるかな

國と民とのやすからむ世を

國民はひとつ心にまもりけり

遠つみおやの神のおしへを

千萬の民よ心をあはせつゝ

國にちからをつくせとぞおもふ

國のためいよいよはげめちよろづの

民も心をひとつにはして

聖慮深淵、洵に恐懼感激に堪へない次第である。

上に聖天子まします。吾等一億の同胞、深く心に期する

所がなければならぬ。即ち一切を君國に捧ぐる至誠こそ此

際唯一絶體の道である。

（終り）

昭和十六年一月二十日發行

（非賣品）

發行所　東京市芝區白金三光町二五番地　國策協會

著者發行者　東京市芝區白金三光町二五番地　大神田軍治

印刷所　岐阜市泉町四七番地　岐阜縣印刷株式會社

印刷年月日　昭和十六年一月二十日

印刷人　岐阜市泉町四七番地　杉山慶治

414
417